

## 大船渡発

### 「居場所ハウス」が完成

大船渡市にアメリカの企業の支援で、高齢者や地域住民が集う場所、「居場所ハウス」が完成し、開所式が行われました。13日は



支援を行ったハネウェル社のデイブ・コーティ会長や地元末崎町の住民など、約80人が出席して開所式が行われました。この居場所ハウスは末崎



町に住む被災者などの、世代間交流を活発にする狙いで建設されたものです。航空宇宙や軍需産業で知られるアメリカの多国籍企業ハネウェルが、建設費用3200万円の支援を行いました。内部の梁などは古民家で使われたものを再利用したものです。今後、高齢者と若年世代が交流できる料理教室などを開催していく方針です。(6/13 ニュースエコー)

## 大槌発

### 仮設住宅で住民交流会

仮設住宅に住む人たちの孤立を防ごうと、大槌町の仮設住宅で交流会が開かれました。これは仮設住宅を建設した業者の協議会が、住民の交流を図ってもらおうと、おとしから行っているものです。布を使ったコースター作りの後は、バーベキューやアンコウ汁を振舞っての昼食会、テーブルを囲んで会話に花を咲かせました。この日は今後の住宅建築へのサービスを充実させるため、意見の聞き取りも行われ、土地のかさ上げ待ちで見通しが立たないことや、高齢で住宅ローンが組めないなど、被災者の切実な現状も伝えられました。(6/15)



## 陸前高田発

### 芸能団体に太鼓を贈呈

江戸の職人が被災地を応援です。東京の老舗太鼓店から陸前高田市の芸能団体に新たな太鼓が贈られました。陸前高田市では太鼓の贈呈式が行



われ東京・浅草の太鼓店岡田屋布施の布施義浩社長から市内の創作太鼓団体、氷上共鳴会の鈴木武幸会長に目録が手渡されました。操業180年の老舗太鼓店が被災地に贈ったのは材料として最高品質といわれる本ヒノキを使用した大小10台の和太鼓です。岡田屋布施の布施社長は「陸前高田市が復興して、100年後も太鼓が使われていくことが、自分達の望み、喜び」と話し、氷上共鳴会のメンバーはお礼の気持ちを込めて真新しい太鼓で演奏を披露しました。氷上共鳴会はおとしの津波で会員7人が犠牲になりました。この団体では震災発生以降、太鼓の演奏会を通じて被災地の現状を発信しており、贈呈された太鼓もその活動に役立てられます。(6/11)

## 陸前高田発

### さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション 内毎週水曜日放送) 陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、「高田松原を守る会」の副会長・小山芳弘さんにお話を伺いました。震災前は2<sup>キロ</sup>の白砂の海岸沿いに7万本の松が広がっていた高田松原。もともと松を枯らす害虫から守ろうと活動していたこの会も、津波で流されてからは「育てる」活動に変わり、苗作りや植林を行っています。小山さんは『高田松原の再生には何年かかるか分からないけれど、自分達が活着している間にできることはやっていきたい。それが自分達の使命だと思うから』と話していました。(6/19)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122